

2008年度アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト実施報告

【制作活動:学校】アートマイル国際交流共同制作 ～子どもたちの目線で異文化理解・相互理解を深める～

ジャパンアートマイル（JAM）は、世界125カ国50万人が参加する「アートマイル壁画プロジェクト」（本部アメリカ）を日本で展開している。JAMは、このプロジェクトを通して日本の子どもたちが世界に出会い、子どもたちの目線で異文化理解を深めることができるように2006年に「国際交流壁画共同制作 International Intercultural Mural Exchange(IIME)」をスタートさせた。以来、交流相手校の紹介からインターネットを活用した交流、壁画の共同制作に至るまで学校における活動全般をサポートし、教育現場で国際理解教育の効果を上げている。2008年度の成果は、交流国・地域が広がったこと、JICAとの連携により発展途上国との交流が充実したこと、進捗シートの導入により活動内容の充実を図れたこと、参加校からの活動報告を検証して「アートマイル国際交流カリキュラムモデル」を再構築し、完成版を作成できることである。

1 2008年度プロジェクト参加校

【日本の参加校：19校24チーム989名】

1 熊本県熊本市立春日小学校	6年32名
2 兵庫県姫路市立安富北小学校	3年11名
3 兵庫県姫路市立家島小学校	2年41名
4 兵庫県赤穂市英語教室中学生	2年 6名
5 大阪府高槻市立第八中学校	1年30名
6 大阪府寝屋川市立友呂岐中学校	美術10名
7 岐阜県岐阜市立精華中学校	1年80名
8 愛知県立岡崎城西高校	3年12名
9 愛知県日進市立日進東中学校	2年228名
10 石川県金沢市立四十万小学校	6年78名
11 石川県金沢市立扇台小学校	6年107名
12 石川県金沢市立金石町小学校	6年66名
13 石川県内灘町立向栗崎小学校	6年64名
14 石川県金沢大学人間社会学域 学校教育学類附属小学校	6年36名
15 東京都立田柄高等学校	3年22名
16 東京都江戸川区立一之江第二小学校	6年129名
17埼玉県久喜市立久喜中学校	2年10名
18 宮城県仙台市立折立中学校	12年18名
19 宮城県星槎国際高等学校	123年9名

【海外の参加校：10の国・地域 19校 24チーム】

<インドネシア>

- National Ubud No1 High School
- Ubud No2 Elementary School

<フィジー>

- Dudley Intermediate School 6-9g (20)

<ベトナム>

- Children's Palace

<韓国>

- Sunrin Middle School 8g (9)

<台湾>

- Ze Hsin Elementary school 6g (28)

- Zhi Kai Elementary School 6g

<フィリピン>

- Iloilo National High School

<イタリア>

- Narni Elementary School 5g (42)

- E. Fermi Elementary School 6g (50)

<カナダ>

- Doverwood Elementary School 5g (27)

- W. H. Day Elementary School 5g (27), 6g (10)

- Boundary Street Public School 6-7g (22)

- Goodfellow Public School 3-4g (19)

- Terry Fox Elementary School 6g (23)

- Frankland Community School 4-5 (29)

- Tweed Hungerford Senior School 5g (28)

<ロシア>

- School 1129 5g (12), 6g (12)

<ヨルダン>

- Iraqi Refugee's Team 8-16g (11)

2 プロジェクトの1年間の流れ

《交流校を決定する期間》-----

4～7月 参加登録

7月 エントリーシート提出

JAMより交流相手の紹介

《交流準備期間》-----

8月・JAM提供のスケジュールモデル・交流カリキュラムモデルを参考に年間活動プランを立てる

・教師交流用のメーリングリスト・生徒交流用の電子掲示板BBSを試運転

《交流学習期間》-----

9月 海外パートナーと交流開始

10月 テーマについて調べ学習

11月 構図決めと制作分担を相手と相談

《壁画制作期間》-----

12月 日本側の壁画制作

1月 海外側の壁画制作

《まとめの期間》-----

2月 完成作品の鑑賞とふりかえり

3月 JAMに作品・写真・評価シートを送付

※9・10・11・12・2月に進捗レポート、3月に活動全体をふり返る評価シートを提出

3 海外との交流学習・共同制作を支えるネットワークと組織を越えた連携



(1) 世界に広がる交流相手の国・地域

2006年初年度は3つの国・地域だったが2008年度には11の国・地域19校に広がった。

[2008年度] カナダ・ロシア・イタリア・ヨルダン・台湾・インドネシア・韓国・ベトナム・フィリピン・斐ジー・フランス（学校外交流）

(2) JAMの海外ネットワーク

JAMでは、Art Miles Mural Project のネットワークと International Education and Resource Network のネットワークから海外の交流相手校を日本の学校に紹介している。

インドネシア、カナダ、イタリアにはその国・地域の学校の交流活動をサポートするカントリーコーディネーターがいる。

こうしたグローバルなネットワークとサポート体制が交流学習と共同制作を支えている。

(3) JICAとの連携

海外との交流にはインターネット環境の違い、文化背景・価値観の違いなど様々な要因で不測の問題が発生する。発展途上国とインターネット上だけで意思疎通を図りながら協働活動を進める場合はなおさらである。こうした国・地域との交流に大きな力となったのはJICAの海外事務所や青年海外協力隊員の協力であった。2008度JICAの協力を得た交流は、斐

ジー、フィリピン、ベトナム、ヨルダンの4ヵ国で行われ、5枚の壁画が完成した。

ヨルダンとの交流では、イラク難民・パレスチナ難民の小中高校生と愛知県立岡崎城西高校の生徒が1枚の大きなキャンバスに自分たちの「将来の夢」を書き込んだ。



[ヨルダンのコーディネーターの感想]

「難民の子どもたちは生活が不安定で厳しいためいろいろなストレスを抱えています。その彼らが一人ひとり自分の将来の夢を描いていただなんて、子どもたちはなんて人生に前向きなのでしょう！」

JICA フィジーがサポートした Dudley Intermediate School と大阪府寝屋川市立友呂岐中学校はお互いに相手の文化を描いた。



(日本がフィジーの絵を、フィジーが日本の絵を描いた)

4 JAM開発の交流シートの効果

JAMでは、活動が始まる前に参加校にスケジュールモデルとカリキュラムモデル（海外校には英語版モデル）を提供した。これにより海外と協働して一つのものを創るというハードルが高い交流を初めての先生でも容易に取り組め、見通しを持って活動できるようになった。

活動が始まると段階毎に進捗シート（海外校には英語版）を提出してもらった。これには活動の各段階で相手と進み具合や活動内容を確認しながら次の段階に進むことができるという効果があった。また、各段階で出た問題点を交流校同士やJAMと共有することで迅速に解決することができた。

活動が終わると全活動のふり返りとまとめとなる評価シートを提出してもらった。JAMはこれを分析して次年度の支援に反映させている。

＜進捗レポート[例]＞

11月末まで	アートマイル進捗レポート その3 <構図決め>
<small>このシートは壁画の構図が決まったところで書いてください。 11月末が期日です。期日までに活動が進んでいない場合は、もったんご報告お願ひします。</small>	
<small>学校名 (Dudley Intermediate School) 担当教員名 (荒川 純江 - Mafu Turasabedi) 提出日 2008.11.29</small>	
<p>1. 進み具合について確認してみましょう</p> <p>□ 作品のテーマ □ レベル1：クラス内で検討 □ レベル2：相手と検討 ■ レベル3：合意をした □ 作品の構図 □ レベル1：クラス内で検討 ■ レベル2：相手と検討 □ レベル3：合意をした □ 分担とスケジュール ■ レベル1：クラス内で検討 □ レベル2：相手と検討 ■ レベル3：合意をした</p>	
<p>2. その他、現在までにすでに取り組まれていることがあればお書きください。</p> <p>【今月の活動内容】 ・学校紹介ビデオを作り、相手校に送った ・テレビ会議の練習・実施</p>	
<p>3. 現時点での疑問点・ご質問などありましたらどうぞ。</p> <p>今月実施したテレビ会議では、現地の先生や子ども達と共に、とても貴重な経験をすることができました。なかなか日本のこと若狭の切掛けのない子ども達が、リアルタイムで日本と繋わりを持つことができ、とても楽んでいました。また、テレビ会議の角の練習を通して、私自身、フィジーのことを知ることができたし、子ども達や先生と窑店開拓を経験できました。今までより近づいた気がしました。こんな機会を与えて下さり、感謝しています。これからが一番大きな作業になりますが、楽しみながら進めていきたいです。どんな作品が仕上がるのか、とても楽しみです。</p>	
<p>4. 様子がわかる写真があれば添付してください。</p> <p>テレビ会議練習、本番のときの様子です。</p>	
<small>提出方法 メールに貼付して送付 :</small>	

5 成果

本年度は10の国・地域と24枚の壁画が完成した。日本の子どもたちは絵の共同制作を通してそれぞれの相手と異文化理解・相互理解を深めた。



＜インドネシア＞ 東京都立田柄高校/Ubud No1 高校



＜インドネシア＞ 熊本市立春日小学校/Ubud No2 小学校



＜イタリア＞ 金沢市立金石町小学校/Narni 小学校



＜イタリア＞ 内灘町立向栗崎小学校/E. Fermi 小学校



＜カナダ＞ 岐阜市立精華中学校/TweedHungerford 中学校



＜台湾＞ 金沢市立四十万小学校/ Ze Hsin 小学校

実践例 その1

東京都江戸川区立一之江第二小学校はベトナムの子どもたちと同じテーマで2枚の絵を描いた。ベトナムの子どもたちはベトナムの文化を、日本の子どもたちは日本の文化を描いて交流した。

31 東京 東部 14版 2008年(平成20年)11月27日 木曜日 享月

壁画描いて国際交流

一之江二小とベトナムの子

細かな部分まで丁寧に筆を入れる一之江二小の6年生ベトナムから届いた壁画。色づかいが明るい!江戸川区春江町4丁目

大きな壁画でお互いの国を紹介しあう交流が、江戸川区立一之江第一小学校(春江町4丁目)とベトナムの子どもたちの間で行われている。27日からの同校の展覧会で「一つの壁画を初公開」。一之江二小の6年生は最後の仕上げに集中している。二つの壁画は世界中の子どもたちが壁画で平和を訴える「アートマイルプロジェクト」(キーワード)にも参加しており、2010年にはエジプトのギザで展示される予定だ。

(豈吹雪)

互いの文化を紹介

一之江二小の図工を担当する永井亜紀子先生は、同校赴任前の約2年間、青年海外協力隊員としてベトナム・ハノイ市に赴任。ベトナムの子どもたちの絵を見せて、同じテ

アートマイルプロジェクト「子どもが描いた壁画で世界の調和と平和」を訴える活動で米国で97年に始まり、2001年にユネスコの「平和の文化10年プロジェクト」に認定。08年9月現在で150カ国から参加。10年にはエジプト・ギザで、日本語や日本文化を紹介する仕事をしていた。

一之江二小は6年生130人で、日本語や日本文化を紹介する仕事をしてきた。一之江二小には帰国後の7年春に赴任。ベトナムの子どもたちの絵を見て、同じテ

合つことが決まったという。一之江二小は6年生130人で制作することに。夏休み中に全員が原画を試作した。全員が原画から下絵の元を選んで色つけを始めた。

井先生は「普段は身の回りの風物しか描かないのに、この子たちにとっても日本文化を知る良いきっかけになった」。ベトナムからは8月に絵が到着。キャンバスの裏に制作にかかわった16人の子どもたちのサインがあった。今後はメールを利用して、絵の感想などを交わしていく予定。ジ

ヤパンアートマイルの代表・塩飽隆子さんは「絵を描いた後にも交流を持つてくれるのもうれしい」と話している。

アートマイルプロジェクト「子どもが描いた壁画で世界の調和と平和」を訴える活動で米国で97年に始まり、2001年にユネスコの「平和の文化10年プロジェクト」に認定。08年9月現在で150カ国から参加。10年にはエジプト・ギザで、日本語や日本文化を紹介する仕事をしていた。

一之江二小は6年生130人で制作することに。夏休み中に全員が原画を試作した。全員が原画から下絵の元を選んで色つけを始めた。

井先生は「普段は身の回りの風物しか描かないのに、この子たちにとっても日本文化を知る良いきっかけになった」。ベトナムからは8月に絵が到着。キャンバスの裏に制作にかかわった16人の子どもたちのサインがあった。今後はメールを利用して、絵の感想などを交わしていく予定。ジ

ヤパンアートマイルの代表・塩飽隆子さんは「絵を描いた後にも交流を持つてくれるのもうれしい」と話している。

実践例 その 2

兵庫県姫路市立安富北小学校の子どもたちは、カナダの W.H.Day 小学校の子どもたちと自分たちの生活や地域の様子を伝え合って、自分たちの目線で二つの国の自然や文化を描き込んだ。絵の右半分はオンタリオの様子を、左半分は安富の様子を描いた。絵は巧みに分割され、子どもたちは自分の地域の様子も相手の地域の様子も両方描いて、自文化意識・異文化意識を高めることができた。



2009年(平成21年)2月8日 日曜日

平和を願つて絵画を制作する、世界的な「アート・マイル壁画プロジェクト」を、学校の授業に生かす試みが全国で進行中だ。県内では、姫路市の小学校が力合ダムの小学生と連携、インターネットを通じて、学校や地域の様子を伝え、相手校からの寄せられた紅葉や滝の写真を作品に反映させた。異文化への関心を深め、英語に触れるきっかけにもなり、教育的な効果も期待されている。(岩崎聰志)

「」のノックロウ、どんな声で鳴くんやろ――本物を見てみたいなあ

野を駆けるオオカミや大地の裂け目のようないろんな滙が、縦約一・五㍍、横約三・七㍍の布地の半分に描かれた。残りの半面は白地。姫路市安富町柄原の安富北小学校三年、四年生が思い描いた方々の風景だ。

プロジェクトのパートナーは東部オンタリオ州の農業地帯にあるW・H・デ・小学学校。児童数約五百人。学校近くにある湿地が動植物の宝庫になつていている。

プロジェクトは一九九七年、米国の民間非営利団体の

教えて、キミの国のこと

W.H.デー小学校 ダ・オンタリオ州

「ママやサケなどの大きな生きものがいる」森や池が大きい」といったイメージをくらませ、「水と天気」をテーマで制作を始めた。同封された手紙やビデオレターで、同小がカメの保護活動をしていることを知り、緑色のカメた」と話している。

交流重ね 壁画制作

アートマイル
プロジェクト 異文化理解、英会話も

「あつたわ、おまえがここにいる。」
「うそだよ、おまえがここにいる。」

A group of students, primarily boys, are working on large-scale murals on the floor of a classroom. They are using various colors of paint and brushes to create scenes that include landscapes, buildings, and figures. The murals are vibrant and cover a significant portion of the floor space. In the background, there are desks, chairs, and a television set. One student in the foreground is focused on painting a red structure, while others are visible in the background, also engaged in their work.

力ナダや地元の風景を
熱心に描く子どもたち
=安富北小学校

6 課題とこれから

2008年度の活動を検証したところ、事前の交流学習で電子掲示板（BBS）とテレビ会議をどれだけ活用したかが異文化理解・相互理解の差となり、相手との連帯感や学習を追求する意欲の差にもなっていた。BBSへの英語での書き込みやテレビ会議でのプレゼンには準備と時間の確保が必要であるが、日本の学校は2学期に行事が立て込んでいるため時間確保が難しい。新モデルでは解決策として、1学期に自己紹介やテーマ交流の準備をしておくことを盛り込むことにした。

アートマイル国際交流カリキュラムモデル

単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介や壁画の協同制作を通して、相手を理解し自分の思いを伝えることができる（コミュニケーション） 交流相手通过对話でステレオタイプでない生の異文化に接し、相手を理解することができる（異文化理解） 自分たちの地域や文化を調べて伝えることで、自分たちの良さを再認識することができる（自文化理解） テーマについて調べたことや考えたこと、人に伝えたい思いを絵で表すことができる（表現）
--------	--

◎5月～7月は交流準備期間、9月に海外パートナー校と交流をスタートします。

	段階	学習活動	ねらい	教科・領域
5月	導入 2~3h	1) オリエンテーション ・ワークショップ体験など 2) アートマイル作品を鑑賞する ・Web／ゲストティーチャー	・世界と自分たちのつながりに気づく ・壁画制作・国際交流への意欲を高める	図工・美術
6月	テーマ学習 3~5h	1) テーマを決め、下調べをする ・ゲストティーチャー ・ビデオ／図書／インターネット	・環境、異文化、食など交流テーマについて関心を深める	国語
7月	情報収集 2~3h	1) 学校や地域を紹介できる資料を集め ・校外活動／カメラ・ビデオ 2) 外国語で自己紹介を練習する ・ALT／地域の外国人の方	・自分たちの学校や地域の特徴をメディアや外国語を使って紹介する ・外国語を学ぶ必要性を実感する	外国語活動
9月	自己紹介 4~6h	1) 自分・学校・地域を紹介する ・自己紹介カード／ビデオレター ・掲示板／TV会議	・相手と出会い、仲間意識を育てる ・相手の学校や地域の特徴を知り、自分たちの特徴を分かり直す	外国語活動 技術・家庭科 国語
10月	テーマ交流 4~8h	1) テーマに沿って自分の国や地域・相手の国や地域を調べる ・図書／インターネット ・校外活動 2) 調べた内容を報告・共有する ・掲示板／TV会議	・交流相手と共に視点でテーマを掘り下げて調べる ・相手が理解できるように内容や表現方法を考える ・壁画のメッセージと一緒に考える	社会科 国語 外国語活動
11月	構図決め 3~5h	1) 構図と制作分担を決める ・掲示板／TV会議 2) 下絵をデザインする	・壁画の制作意図を提案し、交流相手の意見と調整する ・構図に合わせて制作分担を考える ・日本側の下絵をデザインする	特別活動 図工・美術
12月	日本側制作 6~8h	1) キャンバスに下絵を写し、色を塗る 2) 描いている様子や作品を相手に伝える ・掲示板／TV会議 3) 半分できた絵を相手に郵送する	・できあがりを予想しながら仲間と協力して壁画を制作する ・相手の気持ちを意識しながら壁画を制作する ・作品を通して伝えたい気持ちを持つ	図工・美術
1月 2月	相手側制作	1) 相手の制作過程を知る ・掲示板／TV会議	・相手校の進行具合を見守り、感想を伝える ・相手の様子から完成作品へのイメージをくらませる	
3月	鑑賞 2~3h	1) 完成作品を展示・鑑賞する 2) 作品や活動をふりかえり、感想を伝え合う ・掲示板／TV会議	・完成の喜びをクラス全員で味わう ・壁画の感想を出し合う ・交流相手に自分たちの思いを伝える ・活動を通して学んだことをまとめること	図工・美術 外国語活動 特別活動

資料の問い合わせ先：sherry@memenet.or.jp

2008年度ジャパンアートマイル国内活動報告 【制作活動:学校】アートマイル壁画単独制作 ～2008年度テーマ「いのちの地球 Global Harmony of Life」～

ジャパンアートマイルが学校現場で進める壁画制作プロジェクトには、海外校との共同制作と、一つの学校で取り組む単独制作がある。単独制作では、総合の時間などで年間を通して学習したことを見たるに壁面でまとめる取り組みが多く、アートマイルの壁画制作が学びをアウトプットする手段として活用されていることが分かる。自分たちの作品が完成後も国内や海外で展示され、2010年にはエジプト・ピラミッド展で世界の人に見てもらえることが生徒たちに夢を与えているようだ。

1 プロジェクト参加校

【参加校：12校599名】

1 熊本県熊本市立春日小学校	1/2年	88名
2 熊本県熊本市立春竹小学校	5年	108名
3 熊本県熊本市立五福小学校	4年	41名
4 佐賀県佐賀市立赤松小学校	2年	98名
5 兵庫県神河町立長谷小学校	5/6年	10名
6 兵庫県明石市立野々池中学校	1/2/3年	
	40名	
7 岐阜県岐阜市立境川中学校	3年	13名
8 岐阜県岐阜市立岐阜西中学校	3年	6名
9 石川県内灘町立西荒屋小学校	3年	15名
10 神奈川県横浜市立高田小学校	4年	77名
11 栃木県宇都宮市立一条中学校	3年	7名
12 ジャカルタ日本人学校	3年	96名

2 プロジェクトの1年間の流れ

小学校では年間を通じた総合的な学習の時間でアートマイルに取り組んでいるところが多くあった。各校の学習テーマに基づいて、[導入]→[情報収集]→[テーマ検討]→[制作]→[鑑賞]という流れで実施していた。早期に制作したところは鑑賞に充分な時間を取っており、単独制作した学校同士が作品を送り合って鑑賞交流に発展するという新しい動きがあった。

中学校では選択教科、美術部で取り組んでいた。一番の成果は協働作業によって仲間意識が強まり、達成感があったと報告されている。

3 プロジェクトの成果

2008年度は国内11校、インドネシアから1校の参加があり、14枚の作品が完成した。それぞれに学習の成果があった。

(1) 国内の取り組み



岐阜県岐阜市立境川中学校「世界に愛を」



兵庫県神河町立長谷小学校「長谷と世界の自然と人々」



石川県内灘町立西荒屋小学校「すぐすく育て動物たち」

(2) ジャカルタの日本人学校の取り組み

学年で環境学習に取り組んで学習したことをアートマイルの絵に表し、学習発表会で人々に観てもらって自分たちの思いを伝えた。



「インドネシアのすばらしい生き物をまもう！」

貴重な動植物の宝庫であるインドネシア、そのいくつかは今絶滅の危機に瀕している。学年全体で現状について、問題点について話し合い、「インドネシアが世界に誇れる動植物をまもう！」という自分たちの思いをアートマイルの壁画に表した。

(3) 鑑賞交流に発展した取り組み

佐賀市立赤松小学校では作品が完成した後、熊本市立春日小学校、ジャカルタ日本人学校と絵を送り合って鑑賞交流を行った。

アートマイルプロジェクト評価シート

■基本情報について

学校名	[佐賀市立赤松小学校]	担当教諭	[飯盛啓子、井上李子、松本佳子]
児童生徒の学年・参加人数(実教学生であれば学年別に)(2年 98名)			
実施期間: 2008年9月 ~ 2009年1月			
実施教科・段階 (関連させたものまで)	教科 単元名	時数	
生活 なし(他の時間)	アートマイルをえがこう(認定・準備)	0.5	
图画工作	命のつながりをえがこう(各自)	2	
图画工作	アートマイルを鑑賞しよう(学級)	1	
生活	アートマイルでつながろう(学級)	1.5	
学級活動	アートマイルのことを発表しよう(学年)	1	

■作品について

題(テーマ)	命のつながり
	命はつながっています。野菜や花を育ててそれが分かりました。野菜の命は私たちの命につながっています。野菜を育てて大きく育ちたいと思います。
題にこめたメッセージ	種を蒔いて次の命を育むために、花の命は、種でつながっているからです。赤松の校区には、子どもを見守ってくれているやさしい人の人がたくさんいます。100周年の船にもなるので、赤松の命を描きました。



■主な活動の流れ

場面	時期	学習活動・学習内容	児童生徒の反応	実施教科
導入	5月	(1)2組で描く提案の準備をする。 ○ 生活科での学習経験を中心とした絵のテーマ・構図・描くものの、学習計画について考える。	○ 「命のつながり」について描くことを決める。 - 生活科で野菜を育てて食べる。野菜を食べて、元気に大きく育ちたい。 - 生活科で花を育てて桜を1年生にプレゼントした。 - 則探検で、赤松の人々に見守られていることを感じた。	生活

提案 承認	6月 30日	(2)テーマ決定し、学習計画を練る。 ○ 生活科での学習経験を中心として、图画工作科の学習で描くことを決める。	○ テーマを「命のつながり」にしよう。 - 囲りに野菜や花を描きたい。 - 中央部分は各学級で決めて描こう。 2組: 春耕栽培・春耕体操で出会った人 1組: ワクワクなどの動物や遊び 3組: 大きくなったり自分 - 2組(右)→1組(中)→3組(左) の順で图画工作科の時間に描こう。	前の時間 (学年)
		(3)アートマイルを作れる。 ○ 各学級にアートマイルリーダーを作り、各学級単位でのアートマイルに関する学習のめざめをすることを決める。 ○ グループごとに作業を行い、各自で描く。		
交流 鑑賞	9月 ~ 11月	(4)熊本・ジャカルタの小学校と交流する。 ○ ジャカルタから結婚で寄り、展覧会を開く。 - 欲望 - 描示	○ リーダーの計画のもと、自分から積極的に取り組んで、完成させよう。 	休み時間 图画工作
		○ 熊本と絵を交換して、鑑賞をしながら交流を行う。		
振り 返り	12月 ~ 1月	(5)振り返りを行う。 ○ 制作に協力してくれた方々に感謝したり感動できることをみんなにする。	○ 集会でこの活動を発表しよう。 - アートマイルリーダーの発表 「テーマは『命のつながり』です。2年生みんなでかきました。ジャカルタ日本人学校や熊本の春日小学校のみなさんと絵で交流をしていました。」	学級活動
				

■学習目標と成果(順序は重複したものから順に1~5まで記す。)

(5: とても多い 4: 多い 3: どちらともいえない 2: あまり多くはない 1: まったく気付かなかった)

順位	つけたいか・指導目標	教諭の手筋	そう感じた場面・理由
3	コミュニケーション・スキル	4	絵や活動について話し合うとき、絵を描くとき、交流をすると、それとの時間にスムーズな発達や成長を行なうことで、子どもたちが喜んで考え、力を付けることができた。
	情報活用能力(収集・発信)	4	電子メールや手紙、HPや実物からさまざまな情報を得て、それに感想や疑問を新たに付けて後、発信することができた。
	人間関係をつくる力(交流相手・学級内)	3	学級、学年では一度表現できなかったため、アートマイルリーダーの提案によりグループに分かれて表現した。
2	協同作業をする力	4	実行委員会としてアートマイルリーダーたちが学年の中でも新しい代表で出るとともに各学級で活躍することができた。その結果のものも各自で良く描くことができた。
	異文化の理解	3	インドネシアの生き物を生き生きと表現しているジャカルタのアートマイルを鑑賞したり、HPに掲載されている生き物を見たりして、異国的样子に思いを馳せ、ニュースや地図・地図帳に興味を持ったことができた。(自分の地域の生き物を見つめ、細につけられるのをすることもできた。)
1	自文化の理解・自分を覺める力	5	自分の命や成長を肯定的に感じ覚めていくような気付きを持つことができた。生活科の学習との関連が大きかった。
	表現力	3	生活科の学習で出会った命について、もう一度振り返り表現することができた。
	学習を発揮する意欲	4	各学級で分担した表現、学年全体で行った暮薙合閑など、

■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか?

成果	課題
アートマイルの大作には、100人近くの人数で描くにはやや小さいと思われたが、各学級の児童が各自使っていく筆で自分の描きたいものを自由に描くには、ちょうどよい大きさであった。 学習したことと表現したり、表現を生かして交流したりすることで、学習した内容を教科教科振り返りながら、他校のいい表現と比べながら学習を深めることができた。	初めてアートマイルを対った教師や児童は、その意味や効果的な学習の手立てが見えなかつた。 交流を行っていくうちに交流相手に発発され、それそれが書き加えをいたくなつた。それは素晴らしいことだったが、書き加えをしたことで、テーマが埋らぐ可能性もあった。 評価シート(振り返り)に直筆を添付することで、活動をより理解することができるようではないかと考えた。

■その他感想・アートマイルプロジェクトへの署望など

低学年におけるアートマイルの交流は、英語等の外国語を必要としないものを行いたいと考えながら、交流を呼びかけた。それぞれの表現方法の違いもあり、楽しい交流を行うことができた。 JAMおよび熊本市立春日小学校・ジャカルタ日本人学校のご理解、ご努力に深く感謝いたします。 ありがとうございました。

4 課題とこれから

これまで単独制作には1年の活動の指針となるカリキュラムモデルが無かつた。これまでの参加校が学習テーマも制作の時期も自校の実態に合わせて取り組んでおり、特に問題が無かつたからだ。

しかし、2006~2008年度の参加校から提出された評価シートにはすばらしい実践が数多くあり、生徒に身についた力や学習効果もしっかり記録されているので、それを今後の単独制作に活かしたい。

2009年度にこれまでの評価シートを分析し、[活動の段階]と[段階毎の学習のねらい]を明確にして国内単独制作のカリキュラムモデルを作成することにしている。

国内単独制作の学習効果や意義を示して、広く参加を呼びかけたい。子どもたちにクラス全体で協力し合って一つのものを創る喜びと、自分たちの思いを人に伝え、人と共感するする喜びを体感してもらいたい。